The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	香港の慈善団体が行う募金活動についての人類学的研究
Author(s)	芹澤, 知広
Citation	大阪大学, 1999, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/41301
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

【14】

氏　　名	芹澤知広（せりざわ　さとひろ）
博士の専攻分野の名称	博　士（人間科学）
学位記番号	第　14338　号
学位授与年月日	平成11年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 人間科学研究科人間学専攻
学位論文名	**香港の慈善団体が行う募金活動についての人類学的研究**
論文審査委員	（主査） 教　授　小泉　潤二 （副査） 教　授　春日　直樹　　教　授　中川　敏

論文内容の要旨

本論文は，香港の慈善団体が行う募金活動についての人類学的研究である。香港についての人類学的研究は，中国人（華人）の農村社会についての研究として出発し，より大きくは文明社会の研究という性格を歴史的に負っているため，本論文においても人類学の中国人（華人）社会研究と歴史学的研究の両者を意識したかたちで議論が展開される。

第1章においては，香港の人類学的研究に大きな影響を与えているモーリス・フリードマンのリニージ・モデルをめぐる人類学の議論を検討するなかから，「慈善」という新たな研究テーマを導きだす。第2章においては，慈善活動が実際に行われる舞台としての慈善団体という研究対象が，近年の歴史学における「善堂」研究との関係のなかで論じられる。そして香港の慈善団体の研究にとって文書資料がいかに重要であるのかということが，今日の香港の社会的・文化的文脈のなかで示される。第3章においては，本論文で「華人慈善団体」と呼んでいる中国人（華人）の大規模な慈善団体の理事会に焦点があてられ，そのメンバー構成や募金活動の近年の変化が記述される。そこから今日の香港社会を特徴づける慈善活動の「大衆化」という現象が明らかにされる。第4章においては，ある小規模な慈善団体の資金調達と募金キャンペーンの実際についての詳しい検討が行われる。そのことによって，「大衆化」の内実が明らかにされると同時に，歴史学的研究と対比された人類学的研究の有効性が示される。第5章においては，今日の「大衆化」した香港の募金キャンペーンが，「香港文化」として隣接するマカオや広東省の都市，及び近年香港から多くの移民を受け入れているカナダ・バンクーバーに伝わっていることが記述される。そのことによって，本論文の研究対象が今日の国境をこえる人々の移動や文化の交流のなかで，興味深いものであることが明らかになる。

そして以上の議論・記述をとおして，本研究が，質的な調査が不足する香港都市社会研究に対して，そして歴史学を意識した中国研究に対して，さらには「グローバリゼーション」にまつわる文化的現象とその民族誌的研究を近年の課題とする人類学に対して，それぞれ独自の貢献をしたということが示される。

論文審査の結果の要旨

本論文は，香港とマカオにおける調査の結果に基づいて書かれた，中国人（華人）の慈善団体の募金活動に関する

優れた研究である。

慈善というテーマは，これまで人類学ではほとんど注目されてこなかった。しかし，慈善は古典的な贈与論と関わり，また華人文化を理解するための中心的な主題でもある。

本論文のための現地調査は長期にわたって行われ，慈善活動に関するオリジナルなデータが大量に収集されたことは，それ自体大きな意味がある。また香港都市社会については質的な民族誌的アプローチによる研究が不足しているが，この空隙を，香港都市部と新界とを同時に視野におさめるという新しい試みをもって埋めようとした。

本論文によって，香港の慈善団体の活動と実際が，歴史的資料にも基づいてきわめて詳細に明らかにされている。また，慈善活動が「大衆化」され市場化されつつあること，そうした活動が隣接するマカオや広東省の都市，また移民を受け入れるカナダにも「香港文化」として輸出されていることなど重要な指摘がなされている。

以上により本論文は，課程博士の論文として学位を授与するに十分なものと判定した。